

特集

# 市民参加で温暖化調査を!!

## ～実践に向けて～

浜田 崇・陸 斉

### 適応策検討における市民参加型モニタリングの役割

地球温暖化対策を効果的に進めるためには、住民など多くの方々が自らの問題として対策に取り組むことができるようになることが必要です。そのための1つの方法が、多様な主体の参加による温暖化影響のモニタリングです。温暖化対策につながる取組に動植物のモニタリングという形で普段から参加していただくことにより、温暖化現象への理解が深まり、対策へも主体的に参加していただけるようになることが期待されます。

また、温暖化の影響を正確に把握するには、多くの地点でモニタリングをする必要があります。幸い県内には多くの優れたアマチュアの自然誌研究者たちがおり、野鳥や昆虫、植物など生物や雪形（残雪）の観察を続けています。そのような方々にご協力いただき、ネットワークを築くことで、研究所だけでは収集できない多様な情報を共有することができるようになります。

### 過去のモニタリング調査の結果と課題

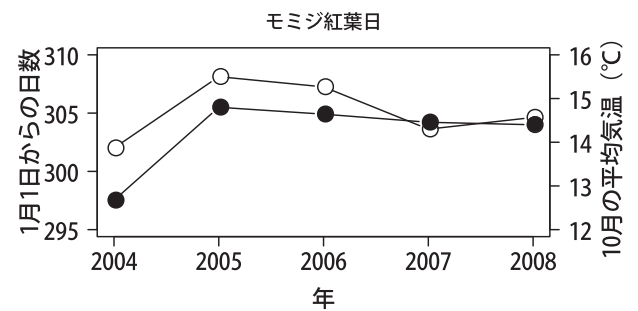
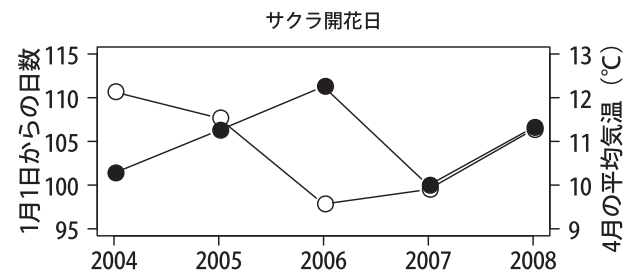
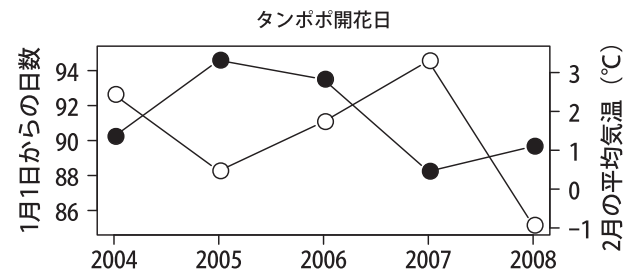
市民参加型モニタリング調査を実施するにあたっては、過去に実施された同様の調査事例を参考にすることが重要と考えています。同様の調査は、生物多様性の保全など温暖化対策とは別の目的で実施されたものも含めると、過去から現在まで各地でさまざまに実施されてきています。その経験から得られている課題やヒントなどをあらかじめ把握するために、現在、事例の収集と課題の整理を行っています。

その一例として、ここではかつて長野県が実施した市民参加型モニタリング調査から得られた結果の一部とその課題について紹介します。

長野県では、市民の地球温暖化に対する意識の啓発と地球温暖化による自然環境への影響を把握するために、2003～2008年度に市民参加型の温暖化モニタリング調査を実施しました。この調査は生物季節や生活季節に関する合計22の項目について、観察された日付を報告してもらうという内容で、観察、報告していただく特派員を県内に住む方々から広募しました。参加者の数は約100名となり、県内各地から登録いただきました。

報告いただいた結果をみると、多くの観察項目において5年間の経年的な変化が似ていました。このことは、観察された地域や標高の違いがあっても、観察項目の毎年の変化が気候の変化をある程度反映することを意味しています。たとえば、タンポポやサクラの開花日、モミジの紅葉日などの項目は気温の変動と良く対応して

いました（図）。このような市民参加型の調査を行うことで、生物季節などへ及ぼす温暖化の影響を明らかにできるといえます。一方で、報告数が5年のうちに減ってしまいましたので、今後、市民参加型調査を企画、実施するにあたっては、参加者の数とその継続性を確保することが重要と考えています。そのためには、わかりやすい観察項目の選定や観察方法、実施体制の工夫などが必要であると考えられました。



平均気温 (○) と同調する傾向が見られた観察項目

### 現在の検討状況と今後の予定

今回の新たな市民参加型温暖化影響モニタリング調査は、平成24年（2012年）から実施することを計画しています。それに向けて、現在研究所内にモニタリング手法立案のための検討会を設置しています。検討会は、長野県に適したモニタリング手法を確立することをテーマとしており、本年3月からモニタリングを試行するための準備を進めています。4月以降は、試行から得られた課題を検討するために委員を増員し、来年の本格実施に向けて作業を進めたいと考えています。